
飛べない鳥

Three PEACE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

飛べない鳥

【著者名】

ZZード

N1668D

【作者名】

Three PEACE

【あらすじ】

バスケをやっていた男子自分を飛べない鳥と言つ、ある女子がきっかけでバスケを再開バスケを通じていろいろなことを学び感じていく、飛べない鳥はどうなる???

「何度言つたらわかる……喧嘩はするなって言つただろ、お前は喧嘩しかやることがないのか……」

「ねえよ、喧嘩しかやること」

また校長室で先校に怒られた、何回田かなあ？わかんねえ、今回は先輩と喧嘩をして先輩をぼこぼこにしたからだ、つまんねえ学校なんてマジつまんねえ、

今日は新しく来た転校生を紹介します。

転校生

「福岡県から来ました新木奈央です。私のこの学校での最終目標は男子バスケ部のマネージャーになつてインターハイに行く事です。」はあ！思わず声が出そつになつた、うちの男バスがインターハイ無理無理、

「新木さんの席はかだい君の隣だね、一番後ろの窓側に居るのがかだい君だよ」

「新木奈央ですよりしくね、かだい君

「……うん」

「フルネーム教えてよ……」

「……かだい そづ」

「どういう漢字？」

「…………燃える火に時代の代に走るの走で

火代 走」「ありがとう！」

俺こいつ嫌いだ、まじうぜえ、だまつてゐ……！」

「火代君なんでバスケ部じゃないの？」

「俺の自由だろ、だいたいバスケなんて興味ねーよ」

「岬中学校つて知つてる？去年無名校ながら全国三位になつたチ

「ムなんだ、岬中はある一人の選手が居たからあそこまで行けた、全国三位になれたの、その選手は一試合平均50得点12アシスト16ステイブルだった、その選手のショートは鮮やかで、その選手のバスは確実で、その選手のカットは素早くとても素晴らしいプレーだった、その選手の名前は 火代 走 あなただよね！」
「なんでバスケ辞めたの」
「お前に関係ないだろ！！！、嫌だから辞めたんだよ！！！、バスケは嫌いだ、おれは飛べない鳥だから」
「……」

放課後

あいつが俺のほうに来た

「聞いたよ、上木君から話しさは、飛べない鳥が何だよ、バスケやらないと一度とお父さんに会えないよ！お父さんに言われたんでしょ高校でインターハイ行つたら会いに来いつてお父さん病院で待つてるよ」

「うるせえ！お前に何が分かるんだよ！お前に何が分かるんだよ」

「分からぬよ、そんなの、一番分からぬのは火代君がバスケを辞めた事」

「怖いんだよ、俺のせいだ友達がバスケできなくなつたんだ、俺のせいであいつの夢ぶち壊してしまつたんだ、あいつの夢はバスケ選手だつた、すげー努力家で俺より3Pが入つてた、だけど俺が3Pの打てない体にしてしまつたんだ、飛べない体にしてしまつたんだ、俺が喧嘩をしてたんだ、そこにそいつが来て喧嘩を止めたんだ、だけど俺は無視したそれでもしつこいから、どけつておしたんだ、そしたらあいつ学校の屋上から落ちて、命は助かつたけど足を切断したんだ、俺に友達はいらねえ仲間はいらねえよ、怖いんだよ」

「その人に謝つたの？」

「謝つてない」

「バシ！！！」

誰も居ない教室に響いた

「なにすんだよ！！！」 「バスケやろうよその人のために、飛べ
なくともいい戦えばいいんだよ、バスケやろうよお父さんのために
お父さん病気と戦ってるんだよ、火代君も戦わなきや」

俺はそれを聞いて教室のドアのほうに歩いて行つた

「逃げるの」

「体育館はこっちだろ」

「私も行く」

彼女は笑つて言つた

「走り！部活行くわよ～」

「ちょい待ち！！！」

「おいでくよ～」

「奈央行こうぜ！」

部活終了

「走り！ラーメン食べて帰るわ」

「ごめん！奈央、俺今日用事あるから、お先……！」

俺は岬中に行った、俺はあいつと待ち会わせをしていた！あいつがいた

「ごめん、今頃言つても遅いけど、ごめん

俺またバスケはじめたんだあるばか女に言われちまつた、逃げるなつて、だからもう逃げない俺お前分までバスケうまくなつから、だからまた俺の親友になつてくれ

「いいよ！走はバカだなあ、走は車イスバスケを知らないの、俺は車イスバスケのほうで上手くなるから、だから絶対バスケ選手になれよな」

「うん」

あいつは泣いていた俺はこれ以上言葉がでなかつた。結局それから俺は家に帰つた。

インターハイ予選が始まつた、

一回戦は余裕で勝てた二回戦も勝てた、俺達は決勝戦まで勝ちのこつた、決勝は一ヶ月後になつた

ある日オヤジの病院に呼び出された、

オヤジは死んだ、

手紙があつた

走へ

バスケちゃんとやつてるか、プレー中歩いてないか、ごめんな死

んじまつて、さいごに言わせてくれ

火代 走 「走」走る 前を見て走る、夢にむかって走る、友のために走る、全力で走る

バスケも同じ、前にも言ったが、おまえは鳥だ、飛べない鳥だ、飛べない鳥が頑張つたつて飛べるはずねえ、飛べねえなら走れ、誰よりも早く走れ、誰よりも長く走れ、それができればお前だって立派な鳥りなれる。

この言葉は俺の胸に痛いほどに響いた、この時決めた、立派な鳥になる、どんな時でも一番早く、一番長く走つてやると決めた！！

部活に行つた、奈央が居なかつた、いつも一番に来るのに今日は来てなかつた、学校に行くと奈央が居た、薬をのんでいた

「風邪ひいとん」

奈央は走つてどつかに行つた。そんなに薬を飲んでいる所を見られたくないだろうか。

それから奈央は部活を休んだ、

インターハイ決勝一週間前、バスケ部の顧問から電話があつた、

「走、新木が亡くなつた、病氣だつたんだ」

「え、奈央が死んだ

は、意味がわからんねえ」

「新木は死んだんだよ、死ぬ直前までお前の名前を呼んでいたそうだ、新木はお前の事好きだつたんだよ」

「俺、俺まだあいつに好きつて言えてねえよー」

奈央まで死んでしまつた。俺は頼れる奴がいなくなつた、

その時上木が俺の所に来た、

「俺を頼れよ、俺はバスケ部のキャプテンだぜ、俺とお前は何年一緒に居るとおもってんだよ、俺は仲間だろ」「そこに神茂も来た

「俺らにしてもらいたいねえ、俺らバスケ部は仲間だろ」「バスケ部のみんなが来た、

「先輩、頼りないっすけど、俺にも頼つて下さい」

「もう大丈夫、インターハイ行こうぜ」

「おう」

久しぶりに仲間という物を感じた。

とうとう決勝が来た、はっきり言つと勝ち目はなかつた。なんせ相手は全国一位のチームだった。

1Qは相手に15点差もつけられた、

3Qがあわつた時には25点差も離れていた、その時キャプテンが言つた、

「新木のために今日は勝とうぜ！！」誰も諦めていなかつた、俺はその時オヤジの言葉を思い出した俺はこの試合一番走つだから立派な鳥だ、そして4Qがはじまつた俺達は追い上げたのこり1分10点差俺はスリー・ポイントを入れた、そしてのこり5秒3点差俺は攻めたそしてスリー・ポイントを打つた外れたでもファールをもらつた。3本入れば延長、一本でも落ちれば負け、俺は緊張した、1本目入つた2本目入つた、3本目……

外れた。

俺達は負けた、新木の夢を叶えられなかつた、俺達はインターハイに行けなかつたやつぱり飛べなかつた、俺は飛べない鳥だつた。

三年後

火代選手プロになつた理由はなんですか？

親友のためと自分のためです、

今の自分の宝物はなんですか？

高校時代の仲間です

今まで一番悔しいおもいをしたのは？

インターハイ予選決勝です

あなたを一言で言つと？

飛べない鳥

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1668d/>

飛べない鳥

2010年11月21日14時50分発行